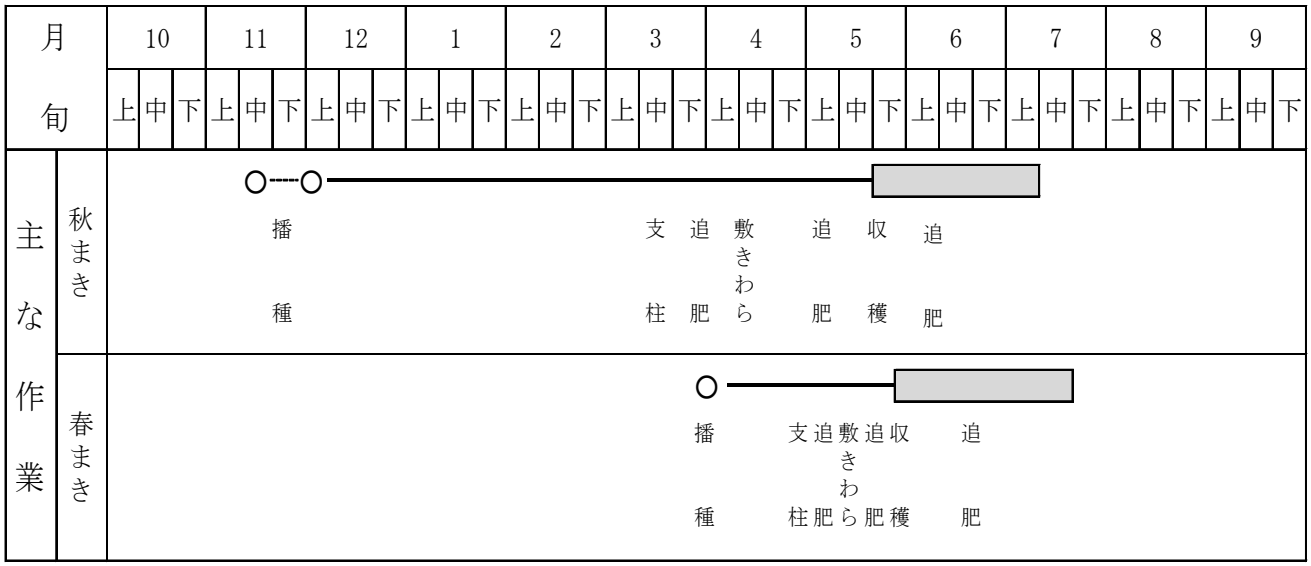
さやえんどう　　マメ科：中央アジア・中近東

栽培暦



■栽培のポイント

1. 酸性の土に弱いので前もって石灰を施し、完熟堆肥を十分に入れる。
2. 茎葉に光線を十分当てるように、株間を取り、つるの誘引をしっかり行う。
3. うどんこ病の早期発見、早期防除に努める。

■特性　低温と乾燥を好み、暑さには弱い。生育並びに結莢の適温は15～20℃。
生育は粘質地が良い。連作を極端に嫌う。

■品種・種子量　莢用：スナック、すずかぜ。種子量はａ当り 0.5～0.6ℓ。

■播種準備

ほ場選定　やや粘質地の排水の良い、日当たりの良いほ場を選ぶ。

播種期　秋播き栽培は、根雪前に芽がでるかでないかの程度の播種期がもっともよい。春播き栽培は土の温度が高まったときに播種する。

施肥・耕起　畑のpHは6.0～6.7が良いので、pHを確認して、播種14日前に完熟堆肥、石灰質肥料を全面散布し、根が深根性であることから十分深耕する。えんどうは根粒菌が窒素を固定するので、他の作物のように多くは必要としないが燐酸の効果は大きい。施肥は前作やほ場の肥沃程度により加減するが基肥は70%とし、播種1週間前に施し十分混和しておく。

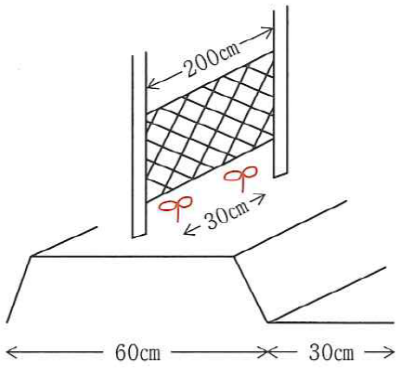
うねつくり　ネット利用による支柱立て栽培はうね幅100㎝とし、土壌の過湿を嫌うので、排水など良くなるように半高うね（15～20㎝）にする。

施肥例　　（a 当り）

肥　料　名	基　肥	追　肥	備　考
完熟堆肥	200kg	―kg	成分量
苦土石灰	20	―	窒素　0.8kg
ＢＭようりん	3	―	燐酸　1.0
塩化加里	1	―	加里　1.2
有機入りＩＢ ホーソそさい１号	4	―	
燐硝安加里Ｓ604	―	2	

うねつくり

（ネット支柱栽培）



■播種　うねの中央に株間 30 cmおきに 1 か所 2～3 粒ずつ、3 cmの深さに播く。

■整枝・誘引

間引き　春、本葉 1～2 枚の時に 1 ヵ所 2 本立てにするため、ハサミで株元から切り取る。

支柱立て　つるを地面に這わせないように早めに立てる。立て方は、図参照。

誘引　茎葉が通路側に伸び出す前に、つるの伸長と共に 30 cm間隔にポリテープを張り、ネットとポリテープではさむようにする。

■敷きわら・かん水　乾燥防止と地温上昇による根の障害防止のため、株元 10 cm開け地面が隠れる程度に敷きわらする。また、土が乾いたらさらっとかん水する。一度に多量のかん水は根を傷める。

■病害虫防除　主要なものは立枯病、うどんこ病、ハモグリバエ、アブラムシである。立枯病は土壌酸性の矯正、加里肥料の十分な施用が有効策である。

■収穫　莢用は開花後 25 日（莢の長さがマッチ棒の長さ）を目安に収穫。収量は a 当り 80 kg。